



SUZUKI・Y 250 改・Yajima special

遥かなる青空の彼方に

日本一周 Vol.06

1978年8月11日~1982年8月17日

遥かなる青空の彼方に 其の陸

<http://p.booklog.jp/book/35522>

著者 : lauriercb4004in1

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/lauriercb4004in1/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35522>

ブックログのpapier本棚へ入れる

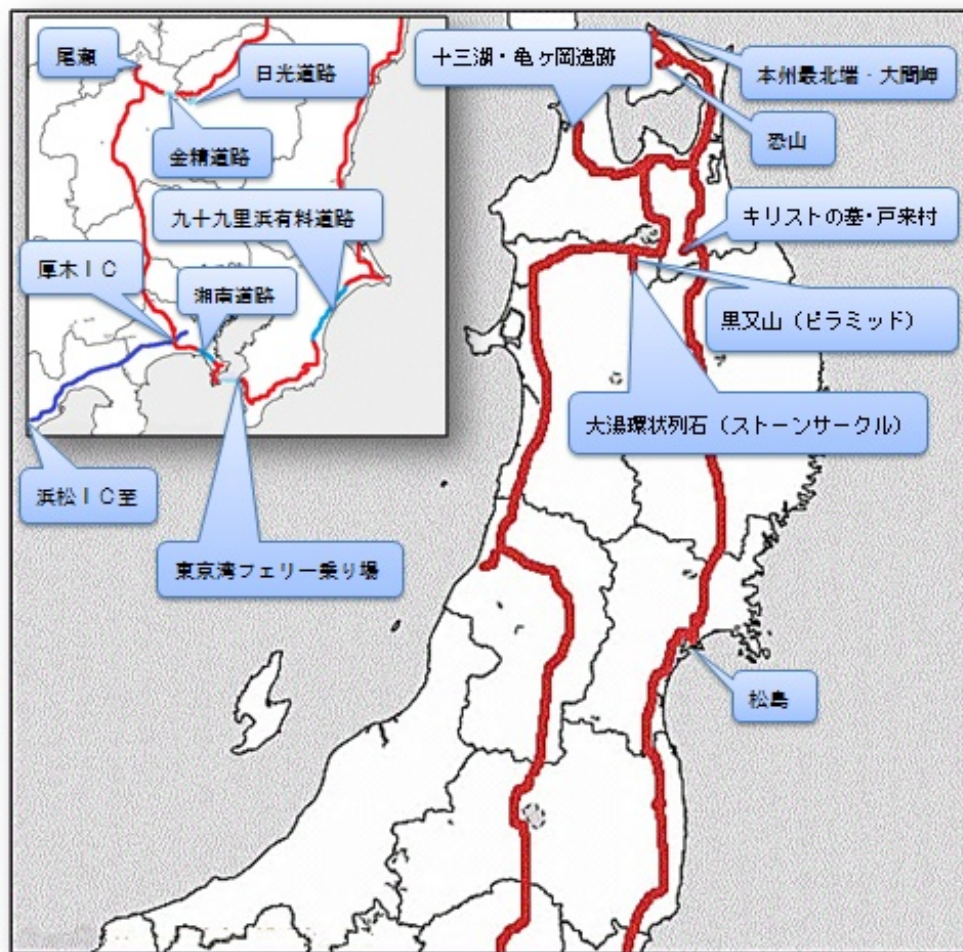
<http://booklog.jp/puboo/book/35522>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

東北 編 (1980年 8月9日~14日)

全走行経路



全走行距離 2096.5km・燃費 32km/ℓ

1980年 8月9日（土） 晴れのち曇り

AM5：00、出発。

出発の時に、キャブレターからガソリンがオーバーフローしているのに気が付いたが時々ある事だからと思い処置をしないまま出発する。

浜松I・Cから東名高速道路を走っている時、キャブレターのブリーザー・パイプからガソリンが流れ出しているのに気が付く。（ミラーから後ろを見ても、ガソリンの流れた出した跡が延々に見える。）

厚木I・Cまでガソリンが持つと思い無給油で来たが浜松I・Cから走って200km付近で予備タンも使い果たしてツーリング初の東名高速道路での初ガス欠になった。

厚木I・Cまであと残り10km、オートバイを押して行く自信が無い！

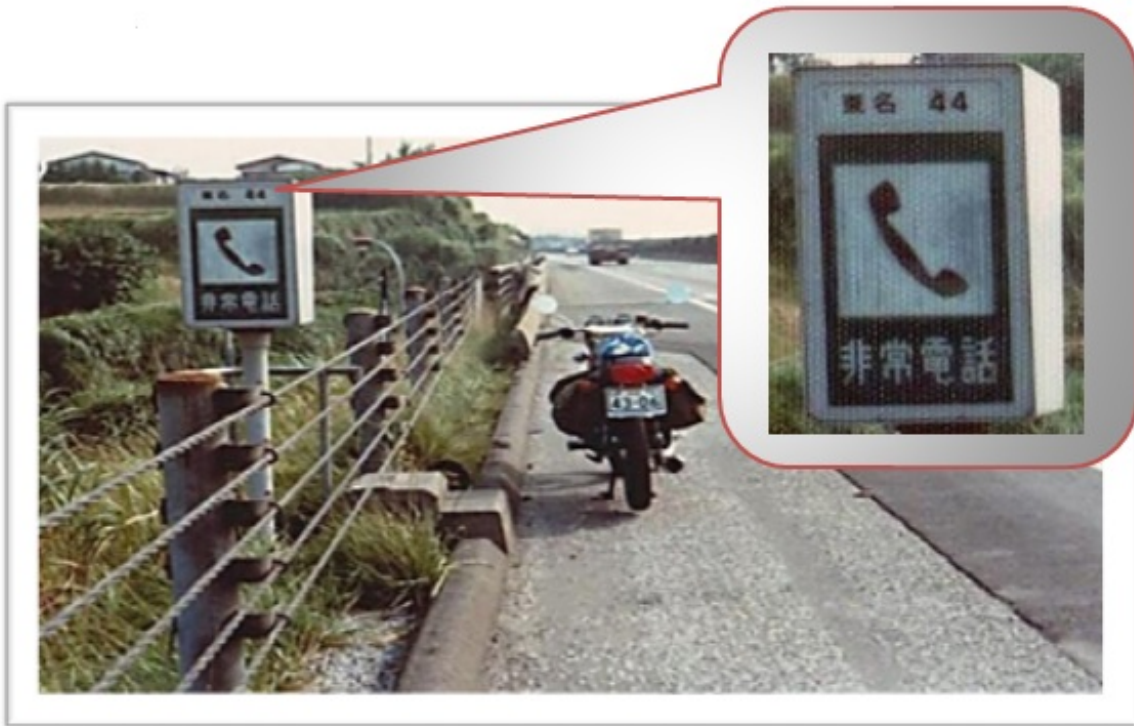
路肩にオートバイを止め、まずはタバコに火を付けて一服。

タバコを吹かしながら周りを見渡せば、フェンスの下の道にガソリン・スタンドが見える。

ガソリン・スタンドを目指して、フェンスを乗り越えるが、かなりの急こう配で転がり落ちずに何とか、ガソリン・スタンドに辿り着くが、ガソリンを売ってはもらえなかった。

来た道を引き返すが、帰りは来た時の逆の急こう配の上り坂『足を滑らせば骨の一本は折るかも！』と頭をよぎる。

なんとか東名高速道路に戻り、非常電までの距離約300m！非常電話までオートバイを押して行きJAFに電話をして救助を求める。



(東名44ポストまでオートバイを押しして来た)

JAFが到着する間に、オートバイの修理に取り掛かる。
 たぶん、ガソリンのオーバーフローは、キャブレターのフロートが上がりぱなしになっているから、キャブレターに少し衝撃を与えてフロートを下げてやればい！
 約40分後に、JAFが到着。(10ℓで¥4,980高い・・・)

(JAFの領収書・保管が悪く変色してしまった)

ガソリンを入れてエンジンを掛けると量的には少なくなったが、まだガソリンがキャブレットから流れ出てくる。

とにかく東名高速道路を出るには厚木 I・C まで行かないと！

走りながら、ガソリンタンクのコックの ON・OFF を繰り返しながら厚木 I・C まで走った。

厚木 I・C から国道 129 に出て直ぐに、ガソリン・スタンドを見つけて給油、ガソリン・スタンドの片隅を借りて再度キャブレットの修理に取り掛かる。(スタンドの人も手伝ってくれてガソリンの漏れは直る)

品名	数量	単価	金額
日石ゴールドガソリン	1		¥
日石シルバーガソリン	8.5		¥ 1275
日石ディーゼル軽油	1		¥
PAN オイル			¥
日石チューンナップ			¥
カーウォッシング			¥

03005

日本石油新町国道給油所
群馬県多野郡新町字戸崎 2336
TEL 02744 (2) 2663
日新石油株式会社
本社 東京都荒川区東日暮里六丁目44番2号
TEL 03 (802) 1121~6番

(スタンドの領収書)

スタンドの人が言うのには、タンクの中のゴミが原因では？そんな事は解っていたが親切に手助けをしてもらったのでお礼を言ってガソリン・スタンドをあとにする。

国道 129 から国道 16 で八王子市を目指し、飯能市から国道 299 で秩父市を抜け国道 140 で熊谷市に出て国道 17 で沼田市を目指して尾瀬に行く途中、埼玉県の山道の国道 299 で自衛隊の輸送トラックやジープがやたらと多い。

こんな山の中で演習か～あ (サバイバルの訓練かも！)

何回か停まって確認したが、キャブからのガソリンの漏れは直った様だ。

PM 6 : 30、尾瀬の民宿に到着。「みなもと」(¥ 3,500)

55年 8月 10日 No. _____
 群馬県利根郡片品村字越本1231
 様 民宿 みなもと
 等 原 勝 男
 下記のとおりに 申し上げます TEL.027858-2358

合計金額 3500.-

月日	品名	数量	単価	金額	備考
7/7	宿泊	1泊	3500.-	3500.-	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
合計				3500.-	

3333 7-120

(民宿の領収書)



(民宿の2階から見た茅葺の廃墟)



(民宿の駐車場)

しかし、今日は最悪な日だった。

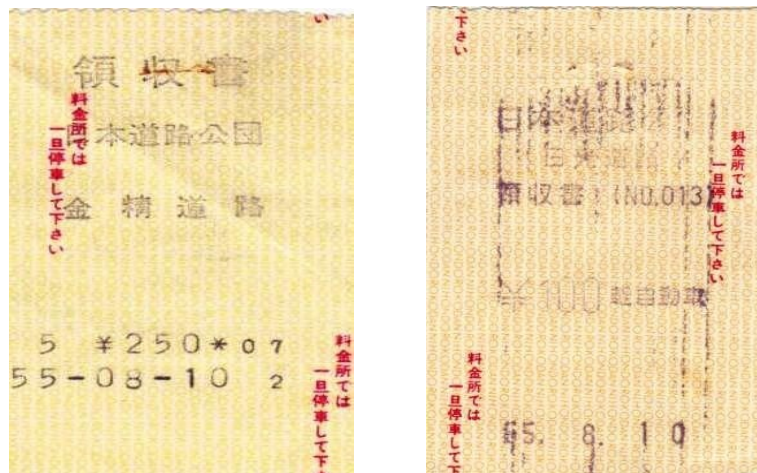
東名高速の非常電が近くに在ったから良かったが、無かったらもっと歩いていたかも！
 旅は始まったばかりで、まだトラブルは続くのか心配だ！

全走行距離 522.8 km・燃費 不明

8月10日（日） 晴れ

AM7:40、出発

尾瀬の民宿から国道401に出て国道120から金精道路（¥250）を通り、戦場ヶ原を走り抜けて中禅寺湖を横目で見ながら日光道路（¥100）で、いろは坂を走る。



（有料道路の領収書）

秋に、ここに来たら紅葉が綺麗だろう！と思いつつ通り過ぎる。

国道120で、日光市を抜け国道121で会津若松市を目指し国道121から国道118を通過して会津若松市に入る予定だったが、どこで道を間違えたのか分からないが今は、何処かの山の中にいる！（しばらく走って案内板を発見！）



（迷った山の中で案内板を見つける）

案内図と地図を照らし合わせて、現在地を確認して国道118を目指して会津若松市に向かう。

山の中を何度も停まって地図を確認しながら走り何とか国道118に出て、しばらく走ると【会津若松城（鶴ヶ城）⇒】の看板が在ったので寄って行く。



(会津若松城・鶴ヶ城)

鶴ヶ城は五層の綺麗な城！（地元の浜松城もこの位の規模で復元されていれば・・・）

会津若松城をあとにして、国道118から国道121に入り自動車も少なく順調に走り喜多方市を過ぎて大峠街道（国道121）に入る。

大峠の途中までは、道が舗装してあって走り良かったのに峠の頂上付近から舗装道路工事が途中で砂利道の未舗装のダート・・・。

重いキャンプ用品積んだオートバイは、簡単に砂利に後輪が取られて横滑りをしてガードレール衝突しそうになる。



(快適に走っていた時の写真この後、悪路が続く・・・)

横滑りとガードレールとの衝突を避けながら何度も停ったり、走りだしたりを繰り返しながら未舗装のダート道を30km走り続けた、怖かった！峠を下り切って自動販売機を見つけて休憩、タバコに火を付けて一服。



(悪路の中間くらいの場所での道路標識を見て一安心)



(悪路を走り切り舗装道路に出て一安心・自動販売機の前で)

ガードレールが無かったら恐怖感は、もっと大きかっただろう今日も付いてない！まだ目的地まで遠い、どうなるか心配だ。

国道121（八谷街道）から国道13で山形市に入ると、道路センターラインに金属の突起物がある！何だろう・・・？

道路に積もった雪を解かす装置？たぶん、そうだろう！と自分に納得させながら走り続ける。

山形市を抜けて、国道13から国道112（六十里街道）をひたすら走って先を急ぐ大峠でだいぶ時間をロスしてしまった。



(雲が掛かって見えない鳥海山【Y1】又は出羽富士)

【Y1】 鳥海山 (ちょうかいさん)

【鳥海山は昔から山の峰に不思議な光がたびたび目撃されUFOの基地が在るのではないかとされている】

【UMA未確認生物が江戸時代から目撃され、大蛇を見た目撃が絶えない】

鶴岡市に着いたのがPM4：00頃、鶴岡ユース・ホステルに電話をして今日の宿を決める。

しかし、いくら走っても鶴岡ユース・ホステルが見えてこない、オートバイを停めて、もう一度地図を確認し考えると鶴岡ユース・ホステルとは逆の方角を走っていたのだ。今夜は飯抜きになるかも！自分で呆れてしまい落ち込む・・・。

PM6：30に鶴岡ユース・ホステルに到着で、なんとか晩飯には間に合った！オートバイのツーリストが6人。

恒例のミーティングは、外に出てゲームをして楽しい時間を過ごしたが明日は何が待っているのだろうか？

全走行距離 422.8 km・燃費 不明

8月11日（月） 晴れ

AM7：30、出発

昨夜、鶴岡ユース・ホテルで一緒の部屋になって、話が盛り上がったヤマハ・スペシャルに乗っている人と一緒に国道7を能代まで二人で走る。

能代に着いて少し早目の昼食を食べ、この人にカツ丼とコーヒー牛乳をおもってもらった。

別れる前に色々と話をして、お互いの無事を祈って別々の目的地に向かって走り出すが、また名前を聞くのを忘れてしまった。

オートバイでツーリングをしていると仲間意識が生まれて、自己紹介をする前に話が弾んでいつの間にか、昔から知っている様な気がして名前を聞くのを忘れてしまうのは俺だけだろうか・・・。

日本海を左に見ながら国道7で北上を続け十和田湖を目指す、国道7は整備された走りやすい道だが、白バイやネズミ捕りがやたらと多い・・・。

秋田市を抜けて日本海とはここで、お別れ内陸にオートバイの方向を変えて国道7で十和田湖に向かう。

十和田湖までは、国道103の一本道、道幅の広い道を走り続け目の前に見える山を越えれば十和田湖！

十和田湖に行く前に、国道103から県道66に入り縄文時代の遺跡・[大湯環状列石\(おおゆかんじょうれっせき\)\[Y1\]](#)（ストーンサークル）を見に行く。

[\[Y1\]大湯環状列石\(おおゆかんじょうれっせき\)](#)

【大湯環状列石は、野中堂遺跡と万座遺跡と言う2つの遺跡の総称で、大変に貴重で興味深い遺跡】

【大湯環状列石（ストーン・サークル）は、縄文時代後期に造られ、その時代の土器・石器・土偶等を数多く発掘され、その造られた目的は共同墓地や司祭場、日時計などの諸説がある。外側に直径40～50mの円形・内側に10～15mの円形の二重の組石群からなり中央に直立した石が立っている。組石が40組以上ある。】



(大湯環状列石の看板)



(小さなストーンサークル)



(手前に小さなストーンサークルが多数、奥には大きなストーンサークル)

ここは、木の杭とロープで囲まれた中に円柱状の石を中心に放射状に長方形の石が並んでいる。(大小様々なストーンサークルが数十個ある)

県道66の帰り道に、[黒又山\(くろまんた\)\[Y1\]](#) (ピラミッド) に寄り、遠くから山の形を見ると四角錐の形をしている (ここは、たまに山の頂上付近で謎の光が目撃されている・・・)

[Y1]黒又山(くろまんた)

【古代山岳祭祀遺跡・日本のピラミットと呼ばれ、黒又山はクロマンタまたはクルマンタと言い、大昔からこの地は、蝦夷地(えぞち)で蝦夷語(えぞご)では「クル」とは神、又は普通ではない人間の事。「マンタ」(マンタはマクタの発音が

ナマツテの発音)とは野の事で「神の山」を指している。】

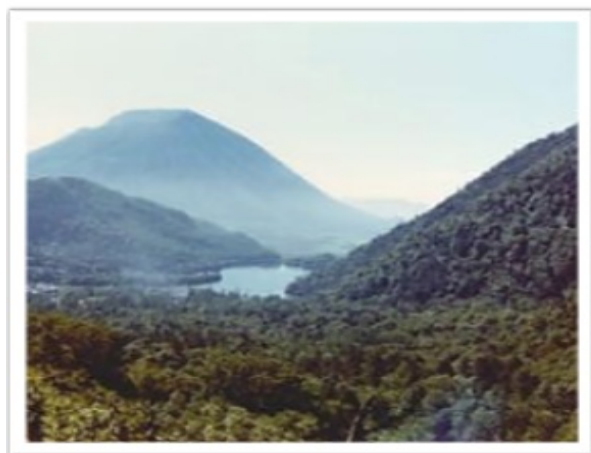
【黒又山と大湯環状列石（ストーン・サークル）との関係や東南アジアの巨石文化との関係が問われて、縄文時代は今よりも温暖で大きな文化が、栄えていたのではないかとされている。】

【黒又山は、標高280mで三角錐のこの山は、ピラミット説が強く神秘的に包まれた山で、人工的に積み上げた山では無いが、人の手で削り取り階段状に形成された山で、形を変えて信仰を深め祭儀を行った山とされている。東北地方の五葉山・姫神山・十和利山がピラミット説がある。】



(黒又山)

黒又山をあとにして、県道66から国道103に入り十和田湖に向かう。



(十和田湖)

今日は、十和田湖のキャンプ場で一夜を明かす。

十和田湖に着いたのはPM4:00頃、キャンプ場（キャンプ場、使用料¥100）に着いて、キャンプ場でバイトをしているカワサキ650ccの人に会う。

この人は、バイトをしながら日本一周をしている人で今は、ここのキャンプ場でバイトをして北海道に渡る資金が貯まったらまた旅に出るそうだ。（北海道・・・いいなあ！俺も来年は北海道へ行くぞ！！）

独特な雰囲気を持って人で旅慣れた感じがまたいい！俺もこんな雰囲気を出せる様になりたいなあ！

今回のツーリングは、宿が取れなかったら時だけ、シュラフだけで野宿をするつもりだったのでテントを持って来ていなかった。

バイトの人と話をしているの途中でC B 400 Tの人が受付に来て、その人も話に加わり色々話をし、この人は青森からフェリーで北海道に渡るそうだ。

話の中で、ご飯を食べて無いので、この辺でご飯が食べれる場所は無いかと聞いてきたので、俺が『食料だったらあるから一緒に食べる？』と言うとC B 400 Tの人はテントはもっていると言う、俺は食料、C B 400 Tの人はテントを提供し合って今夜の飯と宿は決まり。

食事を済ませてから十和田湖の湖畔まで行き体を洗う、水が冷たくて気持ち良かった。

キャンプ場の湖畔の近くでは、外国人10人が大騒ぎをしながら楽しそうに食事の準備をしていた。

太陽が沈みかかった頃、オートバイが続々とキャンプ場にやって来て、お互いに軽く頭をさげ挨拶をする。（なんだか明日は曇りか雨が降りそうだ）

300km走っただけで、クタクタだ！夏の太陽の日差しは厳しい・・・。

全走行距離 321.8km・燃費 不明

8月12日（火） 曇りのち晴れ

AM7:20、出発

キャンプ場で一緒になったCB400Tと共に十和田湖をあとにする。

国道102をしばらく走ると十和田湖から流れ出ている川、奥入瀬川沿いの道は出る。

（木々に囲まれて澄んだ水の流れが神秘的な雰囲気！俺は、こういう場所が好きだ）



（奥入瀬清流に沿ってる道路）

オートバイを停まって、川の流れをゆっくり見たかったが、道幅の狭い川沿いは駐車している自動車ですらでいっぱい、オートバイでも停める場所がない。

奥入瀬川を横目で見ながら国道102で八甲山に向かう。（八甲山は雲が掛かって雨が降っているかも？）

国道102から国道103で、峠道を登って行くにしたがって霧が掛かって来たかと思ったが雲の中に入ったようだ。（視界が悪いし少し気温が低く寒い）

八甲山の峠道をゆっくり下って、雲の中を抜けて麓に着けば夏の日差しが暑い。

麓に着いた所で、お互い重たいキャンプ用品を積んでの濡れた路面での転倒が無かった事を祝って缶コーヒーで乾杯。





(八甲山の何処かだと思おう?)

八甲山をあとにして、国道103で青森市に向かい、ここでCB400Tと別れる。青森市でCB400Tは青森港のフェリー乗り場へ、俺は国道103から国道7で国道101に入り亀ヶ岡遺跡へ向かう。(縄文時代の土偶が展示されている) 青森市は、道幅が広くて名古屋市内の道に似ていて高いビルが多く都会だ!(地元、浜松市とは全然、街の雰囲気が違う) 青森市を抜けて、国道7で五所川原市を抜け国道101を走り、国道339で十三湖(じゅうさんこ)[Y1]を目指す。

[Y1]十三湖(じゅうさんこ)

【十三湖(じゅうさんこ)この地はかつて、十三湊(たさみなと)と呼ばれてた、幻の国際交易都市が存在した。鎌倉時代には、安東氏という豪族の本拠地として北海道のアイヌや朝鮮半島や中国との交易をしていたが、興国二年(1341年)大津波に寄って壊滅したと、されているが十三湊遺跡の発掘調査の結果からも、大津波の跡は確認されていない。】

【東日流外三郡誌(つがるそとさんぐんし)という古文書には、邪馬台国以前の古代王朝から安東氏が事実上の日本の王として君臨し、最盛期には中国人・インド人・アラビア人・欧州人などの異国館があり、カトリック教会まで在ったとする内容であるが、矛盾も見られ「冥王星」などの20世紀に入ってから天文学用語が登場するなどの多くの矛盾した記述がある。】

【安東氏が勢力を誇っていた証しに「福島城」という一辺が、約1kmの三角形をした、総面積62万5千平方メートルの壮大な規模の城郭跡が存在している。十三湊(とさみなと)から源義経が海外に脱出したという話が室町時代の「御曹子島渡り(おんぞうししまわたり)」という御伽草紙(おとぎぞうし)にも描かれている。】





(十三湖)

十三湖をあとにして、県道12の一本道で行けば、[亀ヶ岡遺跡\[Y1\]](#)が在るはず？
迷わず、亀ヶ岡遺跡に到着！古びいた建物の中に縄文土器と[遮光器土器（しゃこうどき）\[Y2\]](#)が展示されている。

施設内は、写真撮影禁止の張り紙が貼ってあるが見学者は俺一人、内緒で写真を撮ろうとしたが視線を感じて振り向くと係りの人が俺の後ろにいた。

俺は、そんなに怪しく見えるのかなあ？帰りに、お土産の遮光器土器のレプリカを買う。

遮光器土器の実物は思っていたより大きく完全な形をしていて神秘的で創造を膨らませれば・・・（宇宙服を着た宇宙人、不思議・大好き人間は、タマラナイ一品です！）

[\[Y1\]亀ヶ岡遺跡](#)

【津軽藩の二代目藩主である津軽信枚が、元和八年（1622年）に、この地に亀ヶ岡城を築こうとした際に土偶や土器が出土した事により発見された】

【この地は丘の部分から甕(かめ)が、出土した事から「亀ヶ岡」と呼ばれる様に成ったと言う】

【亀ヶ岡城は造りかけの状態、一国一城令が出た為に、やむなく廃城になった。1980年（昭和55年）丘陵上や谷の調査が行われた結果、遮光器土器(しゃこうどき)や漆器や土器、石器、木製器などの土壌あと26基が発掘された。】

[\[Y2\]遮光器土器\(しゃこうどき\)](#)

【遮光(しゃこう)というのは文字通り、光を遮断すると言いう意味で別名サングラスを掛けた土器として有名で、主に縄文時代後期に東北地方北部、特に青森県と岩手県で出土している。】

【遮光器土器の大きな特徴は、目が顔の大半を占めているのに対し、鼻が無い事である。体は左右対称の文様で全面に渡って覆われていて胸には、半球形の乳房と思われる突起が張り出して、肩が張り腕は逆円錐形で指は3本しかない。】



(お土産の遮光器土器)

亀ヶ岡遺跡をあとにして、県道12で五所川原市(ごしょかわはらし)に向かい国道101で本州最北端・大間岬へとオートバイを走らせる。

青森市を抜けて、国道4から国道279をひたすら本州最北端・大間岬に向かっていると三河ナンバーのカワサキKL400に会い、お互いに地元から遠く1,000kmも離れていると見慣れたナンバーが懐かしく感じて親近感が湧いて話が弾んだ。

カワサキKL400は、大間岬からフェリーに乗って北海道に渡るそうだ。



(本州最北端の碑)

休憩を終えてカワサキKL400と別れ、俺は地元のおばさんに大間岬までの道を聞いて無事に到着。(大間岬には5人のツーリストがいて写真や昼食を一緒にとる)



(大間岬)

しばらくして、さっき会ったカワサキKL400の人が来てまだ、フェリーの時間があるので本州最北端まで足を延ばしたと言っていた。

2時間位、話をしてお互いの無事を祈りながら別れ、それぞれの目的地に向かう。

大間岬をあとにして、国道279を戻り県道4（恐山街道）で霊場・恐山[Y1]に向かったが途中から道が悪くなる。

恐山街道の悪路を乗り越えて、恐山の駐車場に到着。（駐車場には、数台の自動車とオートバイが停まっている）

[Y1]霊場・恐山

【日本三大霊山（恐山・高野山・比叡山）、日本三大霊場（恐山・白山・立山）、日本三大霊地（恐山・立山・川原毛）の一つで慈覚大師円仁(じかくだいしえんにん)が開山したと言われている】

【地蔵信仰を背景にした死者への供養場で、口寄せ（神仙や死者、行方不明者の霊などを自身に乗り移らせて、その言葉を語ること）を行う巫女(みこ)で、巫(かんなぎ)の事（巫(かんなぎ)は、巫覡(ふげき)とも言い神を祀り、神に仕え、神意を世俗の人々に伝える事を役割とする人。女性は巫女(みこ)、男性は覡(なぎ)、祝(ほうり)という）】



(恐山の駐車場前)

駐車場にオートバイを置いて、入山料（¥300）を払い山門を通る、山門の仁王像（かなり傷んでいる）を見ながら山門を通り中に入ると硫黄の匂い強くなり鼻に突く。

温泉施設が在って入る事が出来る湯小屋（本当に小屋）は宿坊から少し離れた場所に在って中を覗く、かなり古い作り湯船に手を入れてお湯の温度を確認！適温でいい湯。

湯小屋を見た後、地獄めぐりをする血の池地獄、賽の河原、極楽浜、宇曾利湖(うそ

りこ)を散策している時に、風で回る風車とカラスのかん高い鳴き声が雰囲気を高めてくれる・・・。



(正面に見えるのが本堂)



(中央が俺・途中で会ったライダー達)



(宇曾利湖)

霊場・恐山をあとにして、国道174に出て陸奥市に向かい陸奥市から国道338から盛岡市に向かう。

横風の強い中、下北半島を南下し続けるが中々、街が見えてこない。

地図ではそんなに距離が無いのに、走っても走っても一本の道だけが続く下北半島は広い！

盛岡市に向かう前に国道454に入り、[キリストの墓\[Y1\]](#)がある戸来村(へらいむら)の十来塚(とらいつか)に寄る。

山の中の村の中にあるから、だいたいの場所は解るのだが詳しい案内の看板を見つける。

[Y1]キリストの墓

【ユダヤ教の長老たち、パリサイ派の学者たちの反対に合い、ローマ兵に捕らわれ、ゴルゴダの丘で磔刑(はりつけけい)になったのは、弟でキリストが実は、ひそかに生き延びて数人の弟子たち

とシベリヤの広野を遍歴し、アラスカから船に乗って今の青森県八戸港に上陸、陸奥の国・戸来村に住居を定め、十來太郎大天空(とらいたろうだいてんくう)と名を改め、土地の婦人(ユミコ)を娶(めと)り、子供(3女)を育て106歳の天寿を全うしたと言う伝説】

【キリストが初めて、日本に来たのは第十一代垂仁天皇(だいじゅういちだいにんみこと)の御代(みよ)】

【日本海沿岸の橋立の港に上陸し、越中の国に至り、当時この地に居られた尊き方(天皇(みこと))の弟子となり、11年の修業を終えて日本を去り、モナコに上陸してユダヤに帰った。ナザレで成長したキリストは、22歳の時に行方不明になり、11年後の33歳の時に忽然と現れ、天国を語り神の存在を説いた。】

【墓のある丘は、旧家・沢口家のもので沢口家は、キリストの娘の嫁ぎ先で、家紋の桔梗紋(ききょうもん)は、五角の形でありユダヤのシンボル六芒星で、古代イスラムの王ダビデのマークに似ている】

【村に古くから伝わる盆踊りの唄の「ナニヤドヤラー・ナニヤドナサレノ」は、古代イスラエル語の「汝の聖名を誉め賛えん。汝の毛人(えみん)を追い払って」の意味】

【現在でも戸来村小学校の校章は、ダビデの星と同じ形の籠目(かごめ)である】



(新郷村の案内図を発見)

正確な場所が分らないので、多分この辺のはずと思い雑貨屋のおばさんに尋ねると店の前の山道を登って行けばキリストの墓があると言う。

俺が駐車場は？聞くと『ないよ！』とおばさんは言う。

人も自動車も通らないけど、この場所にオートバイを置いて離れるのはヤバイと感じる。(自分の『感』は信じないと！)

山道の途中までオートバイで登り道が狭くなって来たのでオートバイを停めて残りの道を歩いて登る。

頂上には、説明書きの看板と白い木の囲いの中に土が盛られた上に大きな白く塗られた

木の十字架と木の碑がある。



(キリストの墓の説明書きの看板)



(傾いた英語版の説明書き)



(キリストの墓・戸来塚)

キリストの墓・十来塚（とらいつか）の横に、キリストの弟の十代（じゅうだいぼ）の墓も隣にあった。（あとは、何も無い雑木林の場所）



(キリストの弟の墓・十代墓)

真を撮って、来た山道をオートバイの置いた場所まで歩く。

道路に戻り、盛岡市までの道を確認して何気なく雑貨屋の店の壁を見たら小さく【キリストの墓こっち⇒】と書いてある！

あんな小さく、それに目線よりかなり高めの屋根に近い位置にある案内の看板では誰も気づかない！！

この近くにある大石神ピラミッドに行きたったが、最北端で2時間も時間をロスしているので予定距離が、だいぶ遅れているので諦めて国道454から国道4で盛岡市を目指す。

あの雰囲気の中、一人だけ先に行くとは言えなかった意志の弱い自分に情けない。

盛岡市は、まだまだ先・・・走っても、走っても盛岡市に着かない。

盛岡市のユース・ホテルで泊まる予定だったが、ユース・ホテルに着くのがPM8:00過ぎになるので予定変更、遅れを取り戻す為、国道4をひたすら走る。

今の時刻PM7:55、盛岡市の北80km付近のゲームセンターで夕食と休憩をとる。(今日は、まだまだ走らないと・・・)

休憩を終えて国道4を再び走り出すが、どこの街か分からないが夏まつりが行われている、道路沿い神社の横を走って盛岡市を抜けて、しばらく走ると警官に止められて職務質問をされる。

気を取り直して近くに有った自動販売機でオロナミンCを2本飲んで、また走り出す。
PM10:40~PM11:40まで、ガソリン・スタンドで給油と休憩をとる。
AM1:00、さすがに体力の限界を感じて、オート・スナックで休憩をする。（椅子を並べてブーツを脱いで足を延ばす）
AM5:00、目が覚める。（さすがに体力の限界だったのか、疲れて寝てしまった）

全走行距離 653.1km・燃費 不明

8月13日（水） 晴れのち曇り

AM5：30、オート・スナックの水道で歯と顔を洗って一服！

汗と排気ガスで、まみれた体がベトベトして気持ちが悪い・・・。

AM6：00、荷物をまとめ国道4で仙台市に向かって出発、仙台市まであと少しだ！走りながら居眠り運転を3回もしてしまった。

ヤッパリ！一晩中、走り続けるのは体力に自信がある俺でも無理がある。

AM7：30、松島に到着、駐車場では車の中で寝ている人が多い。



(松島の島々が見える何処かの駐車場)

日本三景の一つ、なんの変わりの無い小さな島が沢山あるだけの場所だ。（ここの何処が良いのか、若い俺には分らない）

国道4で仙台市に入り、青葉城を見に行こうと思ったが小雨が降って来たので行くのを諦めて、ひとすら国道4を続け走る。

郡山市に入り、国道4から国道49（陸前浜街道）で磐城市に向かい国道6で水戸市を目指して、水戸市から国道51を走り鹿嶋市で休憩と昼食を兼ねて焼く肉店に入る。

（¥800の焼肉定食を食べる、ここの娘だと思おうが、なかなか可愛かった）

この店は、民宿も兼ねていたから泊まれるか聞いてみたら断られた、薄汚れた格好の目つきが悪い俺が怪しく見えたのかも知れない・・・。

仙台市から走り続けて、銚子市に入ったのがPM4：00過ぎ犬吠埼に行こうとしたが、暗く成る前に今日の宿を早く見つけなければと諦める。

銚子市に入り、しばらく国道126を走り国道沿いにビジネス・ホテルを見つけ今日の宿にする。（このビジネス・ホテルには参った）

昨日は、風呂に入っていないから汗と排気ガスで汚れた体を洗いに大浴場があるので行ってみたら目が点になる。（お湯が入っていない）

お湯が無いと言う事は『自分で入れろ?!』または『使うなと言う事か?!』こっちは、タオル一枚で、お湯が溜まるまで待てない。

フロントに問い合わせると『客が少ないから大浴場のお湯は入れてありません』との事、そういう事はチェック・インの時に言え!!

ホテル都合!客を客とっていない頭にくる!部屋の風呂に入って、缶ビールを飲んで寝る。

全走行距離 472.8 km・燃費 32 km/l

8月14日 (木) 晴れ

AM8:30、出発

銚子市から国道126を通り、**九十九里浜有料道路 (¥200)** 砂浜が延々に続く道路を走る。



(有料道路の領収書)

浜松の中田島砂丘より、砂丘が広大で景色が綺麗、千葉は広い。

東京湾フェリー金谷乗り場に着いたのがPM12:50、出港まで時間があるので昼食をソフトクリームとホット・ドックで済ませ、出港の時間になったら混んできた。

PM1:55、出港の**久里浜行フェリー (¥600)** に乗る。



(フェリーの領収書)

フェリーから降りて国道134で鎌倉市に向かう、はずだったのに道を何処でどう間違えたのか、迷いに迷って同じ道を何回も行ったり来たりしてしまった。

ザット、1時間30分迷った、今までの迷い時間の最高時間だ！自分自身で呆れてしまう・・・。

国道134で鎌倉市に入り鎌倉の大仏を見学しようと思うが、ここでも道に迷って大

仏を見ることが出来なかった。

今まで気が付かなかったが、俺って方向音痴???

こんな方向音痴で、よくオートバイでのツーリングに出るものだ、今日まで方向音痴に気が付かなかったとは恐ろしい。(この時点でかなり落ち込む)

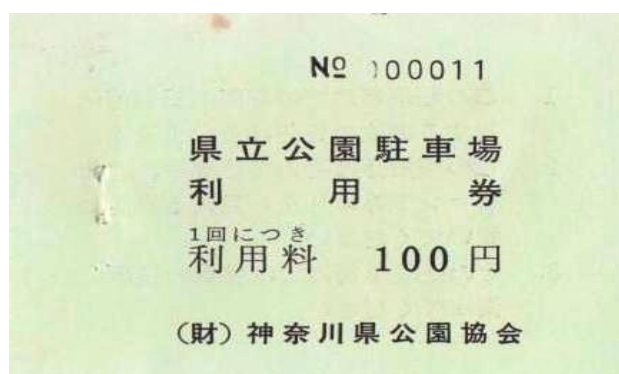
国道134を走り湘南道路(¥10)で海沿いの道を厚木I・Cに向かう。



(有料道路の領収書)

海水浴を楽しむ人の自動車で渋滞、キャンプ用品が幅を取って抜けもできない。(オートバイの熱気と日差しでヘルメットの中は汗ダク)

国道は、渋滞して自動車が全然、動かないので厚木I・C近くの有料駐車場(¥100)にオートバイを止め、渋滞が解消する夕方まで休憩。



(駐車場の領収書)

駐車場の近くにあった、そば屋で夕食を取り家に電話する。

電話がつながるといきなり、おかあーちゃんが『アンタ！今、どこにいるの！いつ帰ってくるの！』とガミガミ言って来た。

おかあーちゃん曰く、『北に行くか、南に行くか』くらい告げてから家を出ろとの事。

まあ！仕方ない、何も言わずに黙って何処に行くとも言わずに家を出て6日間、一度も連絡していないのだから・・・。

PM6：30、ようやく渋滞が解消。

PM7：00、厚木I・Cから東名高速道路で浜松に向かう。

PM10：10、[浜松I・C](#)に着く、すぐには、家に向かうのをやめて！



(高速道路の領収書)

PM10：30、喫茶店「Blue・IN・Green」に着く。

喫茶店には、高校の時の友達が3人いてツーリングの話を1時間位を話す。(仲間と話して帰って来たと実感する)

PM11：40、家に着く。

今回も色々な人に出会って色々世話になった。

ツーリングで多くのライダーと会い、名前も知らずにまた別れてしまった。

でも、俺は名前を知らなくても一瞬、気持ちが同じになって同じ時間を過ごした。

それだけで、いいと思う。

楽しい思い出をありがとう！ツーリスト達

全走行距離 513.2 km・燃費 32 km/l